園名　奈良学園幼稚園

はばたくなら①･⑤
～質の良い環境づくりのために～

取組について

職員と保護者が、お互いに手を携えて「子どもたちにとって質の良い環境」を作っていくために理解を深めてきた。

「はばたくなら」を活用して、自尊感情・学習意欲・規範意識を高めることによって、就学前から身に付けておくことの必要な非認知的能力を互いに共有し研修する。

実践事例①

就学前教育プログラム「はばたくなら」をもとに、各教諭それぞれの研究課題をもち、実践事例を出し合い園内研修を行う。教諭の年齢層の幅が広いので、それぞれの幼児理解の深め方を出し合いながら、先輩教諭から後輩教諭へ、後輩教諭から先輩教諭へとチーム保育を実践し、お互いに保育のフィードバックを行う。「はばたくなら」原本を見ながら要約版DVDを視聴し、内容について意見を出し合った後、各学年ごとに研究保育を行った。

【「はばたくなら」要約版DVDを視聴しながら原本を読み保育に活かす研修】

園内研修会での協議では、内容の一つ一つに『自尊感情』『規範意識』『学習意欲』に関する内容が取り入れられており、教師一人一人が、「はばたくなら」で示されている課題を意識して取組を進めている。

今までの園内研修では、保育指導の技術や教材研究の仕方などに重点を置いてきたが、幼児心理やそれまでに至ったクラスの仲間関係など「心情」「意欲」「態度」をどのように育てているか、子どもたちがどのように育っているかを保育の反省で述べることが中心になってきた。

それと共に、先輩教諭の保育の視点が変化すると若い教師も同じく幼児心理について、深く探ろうとする姿勢も見えてきた。

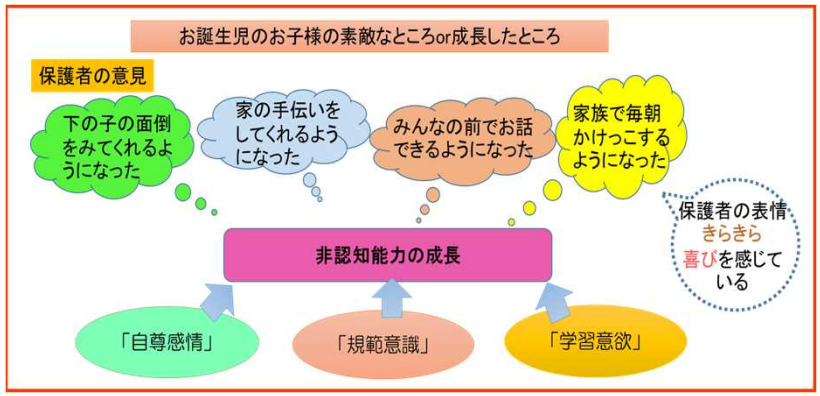
クラスの子どもたち一人一人の内面心理を理解することから始まり、「自尊感情」の高め方であったり「規範意識」の芽生えであったり「学習意欲」に通じる意欲の育て方を「はばたくなら　援助の重点」を参考にしながら、日々保育に取り組んでいる最中である。

実践事例⑤

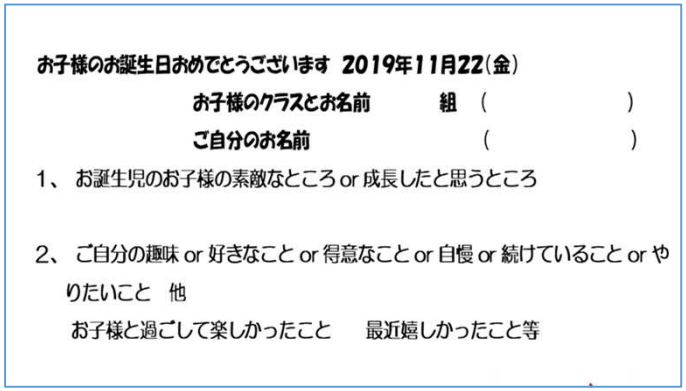
誕生会後の保護者と園長の茶話会で、「はばたくなら」要約版DVDを視聴していただき、それと同時に「奈良学園幼稚園シラバス」と前年度の取組の冊子を渡し、本園の幼児教育について理解していただく機会としている。

保護者からは、我が子の成長が見られたときに喜びを感じるという声があった。「はばたくなら」の中で、『自尊感情』『規範意識』『学習意欲』の三つの重要性を改めて知っていただいた後だったので、自ずとその内容を意識した会話となった。

はばたくなら要約版DVD視聴後の茶話会



「奈良学園幼稚園シラバス」の中には、「幼児期に育てたい資質・能力の３つの柱」及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿」を明記し、本園の前年度の取り組みとして、「幼児期に育てたい資質・能力の３つの柱」が実践できているか検証したポートフォリオで示した。



お子様のお誕生日おめでとうございます 2019年11月22(金)

お子様のクラスとお名前　　組（　　）

ご自分のお名前　　（　　）

1、お誕生児のお子様の素敵なところ or 成長したと思うところ

2、ご自分の趣味 or 好きなこと or 得意なこと or 自慢 or 続けていること or やりたいこと　他

お子様と過ごして楽しかったこと　　最近嬉しかったこと等

まとめ

・普段から幼稚園教育では「心情」「意欲」「態度」を育てることを大切にしてきたが、「はばたくなら」の要約版DVDを視聴することによって研修の機会を持った。視聴後冊子で詳しく読むことによってより深く学べた。

就学前教育では、就学後のような学習ではなく遊びを通して行う教育であるので、教師はその内容を理論で説明するのは難しく、保護者にも理解してもらいにくいところがあるが、画像や事例があることで教師にも保護者にもわかりやすく、共有しやすいのでよかった。

・知育偏重になりがちな考えが、実際に就学前には何が大切なのかを示されており、「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」を重視した事例が示されているので、実際の園生活で遊びを通して行っている教育について理解してもらいやすくなった。

・教師達も改めて日々の保育の振り返りに活用できるので、有効活用ができたと考えている。

(成果)

・保護者の方に各月の誕生会の茶話会で視聴していただき本園教育についても理解していただく機会となったので、要約版視聴は大変役立っている。

・我が子の成長した点や素敵なところを語られる内容が全て、子どもの現在の姿を深い部分で前向きに理解して語られていたように思う。

・教師も日々の取組で、子どもの出来映えではなく、それまでのプロセスを大事にしていることを話すことが多くなり、そのためにはどのような保育内容にすればよいか、考えるきっかけとなっている。

(課題)

・事例がまだ数少ないので、本園として一つ一つの細かな事例を増やし、後輩教員や活用する人がより理解しやすく扱いやすいものとなるように開発する余地があるように思う。